

別紙1 画像診断システム要求仕様書

要求仕様						必須
2					放射線レポートシステム	
2	1				共通	
2	1	1			セキュリティ	
2	1	1	1		職員毎に、ゲストユーザを含む利用者権限設定ができるようにすること。ただし、利用者IDについては、職員番号等、現行システムの利用者IDからの移行を考慮し、設定すること。	○
2	1	1	2		利用者ID以外に職種や研修属性、免許、有効開始日、有効終了日等のフラグを設定できるようにすること。	○
2	1	1	3		システムへのログインのため、二要素認証システムと連携すること。なお、手袋装着時等に備え、通常のID・パスワード入力形式のログインにも対応すること。パスワードに関しては総務省が推奨するガイドラインに沿った入力方式を可能とすること。	○
2	1	1	4		システムの利用者の管理を効率化するため、各利用者を職種、管理単位別にグループ化できること。	○
2	1	1	5		職種の追加に柔軟に対応できるシステムとすること。	○
2	1	1	6		利用者またはグループ単位で、利用できる機能や資産の参照権限、更新権限を設定できること。	○
2	1	1	7		利用者とその利用者の属しているグループの権限が異なった場合は、原則として利用者個人の権限が優先するような仕組みとすること。	○
2	1	1	8		電子カルテシステムとシングルサインオンできること。シングルサインオンできないシステムがある場合には、事前に当センターに報告すること。	○
2	1	2			監査証跡機能	
2	1	2	1		ユーザ操作の履歴を操作ログとして保存できること。	○
2	1	2	2		権限をもつユーザのみが操作ログを参照できること。	○
2	1	2	3		本システムの利用状況（利用主体別アクセス状況、利用時間等）を月次で報告できること。	○
2	1	2	4		クライアントに出力されたログファイルは古くなると圧縮されること。	○
2	1	2	5		クライアントで発生した予期せぬエラーはイベントログテーブルに出力されること。	○
2	1	2	6		レポート情報の更新履歴が保存され、必要に応じて更新前と更新後の内容を照らし合せることができること。	
2	1	3			操作機能	
2	1	3	1		各画面にてキーボードショートカットをサポートできること。	○
2	1	4			他システム連携機能	
2	1	4	1		診断画像を参照するため、PACSの画像ビューワを起動することができること。	○
2	1	4	2		URL呼出や実行ファイル起動等により、他システムの参照機能を起動するボタンを設定にて各画面に追加することができること。	○
2	1	5			検索条件リスト機能	
2	1	5	1		用途に応じた検索条件や表示項目がタブとして管理され、複数のタブを一つの画面に表示できること。タブの表示順序は変更できること。	○

別紙1 画像診断システム要求仕様書

要求仕様						必須
2	1	5	2		検索条件、表示リストの項目はユーザ毎、タブ毎に初期値の設定ができること。	○
2	1	5	3		指定された検索条件の中で、一時的に変更したい条件はフィルタ条件としてタブに表示させることができ、画面を閉じること無く初期値に戻すことができること。	○
2	1	5	4		検索条件は一時的に変更を行うことが多い条件は常に表示し、頻度の少ない条件は非表示とすることができること。非表示の検索条件も簡単な操作で表示することができること。	○
2	1	5	5		リスト項目は名前やアイコンを付加することができ、ユーザ毎、ユーザグループ毎に管理することができ、検索条件の初期値やリスト表示項目等の編集が指定ができること。	○
2	1	5	6		同一検索条件を複数指定する場合、AND/ORの指定ができること。	○
2	1	5	7		検索条件は連動絞込ができること。検査種で選択すると、検査室や検査項目が当該検査種のもののみに絞り込まれること。	○
2	1	5	8		画面起動時には、初期表示タブの指定ができること。	○
2	1	5	9		タブの指定は権限を持つユーザであれば複数端末、または、複数ユーザに対し一括で設定ができること。	○
2	1	5	10		リスト表示項目の詳細では以下を指定できること。 ・リスト出力項目 ・タイトル ・順序 ・日付、時刻フォーマット ・配置方向 ・幅 ・フォント名、サイズ	○
2	1	5	11		リスト表示項目の順序、幅はリスト上での変更をそのまま設定値として反映できること。	○
2	1	5	12		リスト表示における詳細設定では以下を指定できること。 ・タブ切り替え時の検索実行の有無 ・自動更新ボタン表示有無と初期有効可否と更新間隔 ・検索条件の自動初期化有無と自動初期化発動時間 ・固定列有無と列数 ・最終検索時刻の表示有無 ・検索結果件数表示有無 ・行罫線と列罫線の表示有無 ・行番号表示有無 ・行背景色（単色、ストライプ、ステータス依存） ・ソート順	○
2	1	6			コメント入力機能	
2	1	6	1		コメントはフリー入力に加えてコメントパターンからの入力ができること。	○
2	1	6	2		コメントパターンの編集は、コメント入力可能なユーザであればコメント入力欄から容易にコメントパターン編集画面を呼び出しできること。	○
2	1	6	3		コメントパターンはフォルダでの分類管理ができること。	○

別紙1 画像診断システム要求仕様書

要求仕様						必須
2	1	7			その他	
2	1	7	1		レポートシステムは電子カルテ端末へ相乗りが可能であること。	○
2	1	7	2		サーバ構成はPACS側の仮想化基盤へ構築すること。	
2	1	7	3		既存システムの過去データを新システムへ移行すること。 尚、既存システム側に発生するデータ移行費用も本調達に含めること。	○
2	1	7	4		埼玉県内に1次サポート拠点があり、当センターへサービス技術員を派遣できる体制を確保していること。	○
2	2				レポート患者情報管理	
2	2	1			患者情報管理機能	
2	2	1	1		専用の画面にて患者ID、患者氏名などの患者基本情報の新規登録および変更ができること。	○
2	2	1	2		患者プロフィール情報として、以下のような項目を電子カルテと連携もしくは手入力できること。また患者プロフィールとして管理できる項目は追加や変更ができること。 看護区分、患者区分、救護区分、障害情報、感染情報、禁忌情報、妊娠状態、死亡退院、体内金属、クレアチニン値等の血液データ、eGFR など	○
2	2	1	3		患者プロフィール情報については医療情報システムから取得するものと部門システムで登録するものなどの管理ができること。またその更新日時を保持できること。	○
2	2	1	4		最新の患者プロフィール情報をユーザが任意で取得し、画面に反映させることができること。詳細は他システムベンダーと調整をおこなうこと。	○
2	2	1	5		患者プロフィール情報のうち、部門システムで変更可能なものは各画面から更新することができること。	○
2	2	1	6		患者に付随するコメントの入力ができること。コメントは種別毎に管理ができ、患者に永続的に付随するもの、特定の日付に付随するもの、特定の検査種に付随するものの入力、管理ができること。	○
2	2	1	7		コメントはフリー入力に加えて定型コメントからの入力ができること。	○
2	2	1	8		定型コメントの編集は、コメント入力が可能なユーザであれば定型コメント選択欄から容易にできること。	○
2	2	1	9		上記の患者に関する情報を各画面で表示できること。	○
2	2	1	10		患者は、患者カナ名、病棟、診療科等の条件により検索できること。	○
2	2	2			入外情報管理機能	
2	2	2	1		患者の病棟名、室名、ベッド番号を入外情報として登録および参照ができること。	○
2	2	2	2		入外情報は、現時点の最新の情報、検査予定時点の予定情報、検査実施時の情報をそれぞれ管理できること。	○
2	2	3			死亡患者管理機能	
2	2	3	1		死亡した患者は死亡日の入力が可能であり死亡したことがわかる「★」などのマークがリストに表示されること。また、死亡した患者の年齢表示は死亡時の年齢に置き換えられること。	○
2	2	4			造影剤副作用機能	

別紙1 画像診断システム要求仕様書

要求仕様						必須
2	2	4	1		造影剤の副作用について、造影剤名、副作用の症状やコメントなどを登録できること。	○
2	3				レポート業務	
2	3	1			レポート共通機能	
2	3	1	1		セキュリティ機能を有し、利用者により1次読影者、2次読影者としての管理ができること。	○
2	3	1	2		ユーザグループにより記入、あるいは参照できる権限を制御できること。	○
2	3	1	3		レポートの記入状況（未読影、読影中、保留（一時保存）、一次確定/二次確定等の途中段階の状況、確定、差戻し、読影不要など）を管理できること。	○
2	3	1	4		レポートの記入状況は施設の読影フローに合わせて変更ができること。	○
2	3	1	5		レポートの記入状況としてトランスクリバの進捗も管理できること。	○
2	3	1	6		確定済のレポートの確定解除ができること。また、確定解除が行われた場合も確定時の履歴は保存できること。	○
2	3	1	7		確定保存されたレポートは必要に応じて更新することができることとするが、改ざん防止のため改版履歴を有すること。	○
2	3	1	8		レポートの確定には承認を経ることを必須とすることができること。	○
2	3	1	9		レポートには次のレポート記入担当者を指定して申し送りコメントの入力ができること。	○
2	3	1	10		レポートの差戻し時には差戻しコメントの入力ができること。	○
2	3	1	11		確定したレポートの修正は、設定により確定権限をもったユーザまたは確定者のいずれかのみが確定解除できること。	○
2	3	1	12		レポートには検索可能なタグを複数付加することができること。また、タグはレポートを特定できるあらゆる画面から付加することができること。	○
2	3	2			レポート作成枠作成機能	
2	3	2	1		記入枠作成機能により外部システムから検査情報を取得できない場合でも、レポートシステムのみで検査情報の登録および変更できること。	○
2	4				レポート作成	
2	4	1			レポートワークリスト機能	
2	4	1	1		レポート作成対象の検査を検索、リスト表示できること。	○
2	4	1	2		上記、大項目「共通」の小項目「検索条件リスト」に対応していること。	○
2	4	1	3		検索条件としては、以下を指定できること。 患者ID、性別、検査日、検査曜日、検査時間帯、検査種、検査項目、レポート記入状況、検査依頼状況、要読影区分、依頼付随情報、依頼科、依頼医、施行医、確定日、確定医、承認者、読影担当医、紹介元施設、レポートタグ、レポート分類、更新中ユーザ、レポート既読状況、重要レポート区分、PACS画像状況	○

別紙1 画像診断システム要求仕様書

要求仕様						必須
2	4	1	4		リスト表示項目としては、以下が表示できること。 レポート表示状況、検査依頼状況、読影区分、患者情報（患者ID、氏名、カナ名、性別、検査時年齢、プロフィール情報、付随情報）、入外区分、病棟、依頼科、依頼医、検査日時、検査種、検査部位、検査項目、検査室、検査依頼付随情報、コメント類（患者コメント、オーダコメント）、紹介元施設、紹介者、実施者、施行医、各ステップ保存者、確定日時、確定医、初回確定日時、初回確定医、承認者、読影担当医、レポート本文のテキスト、レポート版数、レポートタグ、更新中ユーザ、重要レポート区分、重要レポートコメント、レポート既読状況、既読者、既読日時、既読版、PACS画像状況、PACS画像枚数	○
2	4	1	5		月1回のみ画像診断管理加算2が算定可能な検査で当月まだ未読影の検査の場合、未読影のマークがリスト上に表示されること。	○
2	4	1	6		画像診断管理加算2および3の施設基準「翌診療日までに八割以上の読影結果が報告されていること」を満たすため、該当する検査毎の最新の読影率、必要な読影件数および読影に必要な時間の目安がリアルタイムで表示されること。	○
2	4	1	7		レポート作成対象の検査を選択し、レポート作成画面に展開できること。	○
2	4	1	8		レポート作成要不要の指定ができること。	○
2	4	1	9		レポートの担当者の振り分けができること。	○
2	4	1	10		読影レポートの印刷ができること。また、PDFファイルとしての出力もできること。	○
2	4	1	11		レポート分類登録ができること。	○
2	4	1	12		レポートタグの指定登録ができること。	○
2	4	1	13		患者コメントの登録ができること。	○
2	4	1	14		レポートコメントの登録ができること。	○
2	4	1	15		画像参照ができること。	○
2	4	1	16		画像参照は患者ID指定やオーダ番号指定での起動連携ができること。	○
2	4	2			レポート作成機能	
2	4	2	1		専用のレポート作成画面により検査結果に対して読影レポートを作成できること。	○
2	4	2	2		レポート作成画面では以下の情報がウィンドウ毎にまとめて表示され、ウィンドウの配置および表示・非表示を検査種毎、ユーザ毎で設定できること。 患者情報、読影リスト、オーダ詳細・レポート参照、レポート分類、タイムライン、レポート作成（テンプレート、キー画像）、ファイル添付、レポートタグ登録、レポートコメント、検査歴・症例検索、キー画像編集、テキストパターン、レポートテンプレートテキスト変換	○
2	4	2	3		上記レポート作成画面のレイアウトのプリセットとして、比較読影機能に特化したもの、縦型モニタに特化したものが選択可能であること。	○

別紙1 画像診断システム要求仕様書

要求仕様						必須
2	4	2	4		担当医指定されたユーザでないユーザが記入しようとした場合、警告メッセージが表示されるが入力可能である場合と入力できない場合は設定により指定できること。	○
2	4	2	5		サーバのデータベースへのレポートの保存にてエラーが発生した場合やアプリケーションエラーが発生した場合などに備え、記入内容を一時的に暗号化してローカルに保存することができること。また、そのレポートを開いた場合にはローカルのファイルから内容を適用できること。	○
2	4	2	6		レポートは、一次確定、二次確定などの段階的な運用が可能であり、権限や現時点のレポート状況により次に遷移できるレポート状況が制御できること。	○
2	4	2	7		保存操作を行ったユーザの情報を記録できること。	○
2	4	2	8		レポート保存時には確認画面が表示され、承認者と同時に印刷するか否かと、印刷時の出力プリンタ、出力フォーマット、部数の指定ができること。	○
2	4	2	9		保存時の内容は全て履歴として保存されていること。更新履歴は簡単に参照することができ、任意の版との差分表示ができること。	○
2	4	2	10		重要な所見であることを示す、重要レポート区分の入力ができること。重要レポート区分の内容はWEBのレポートリストやレポート参照に表示できること。	○
2	4	2	11		レポート保存時に読影にかかった時間を同一検査の読影時間のヒストグラム上に表示し、視覚的に読影にかかった時間を比較できること。	○
2	4	3			レポート作成機能（テンプレート）	
2	4	3	1		所見や診断等を含む読影結果情報は、部品を自由に組み合わせることのできるテンプレートにより定義されたフォーマットでの入力が可能で、検査の種類や部位による使い分けができること。	○
2	4	3	2		1つの検査に対して、技師のレポートや複数の読影医がレポートを記入できる権限によって、記入できる情報を分けることができること。	○
2	4	3	3		テンプレートには以下の様な部品が使用できること。 タブ、ラベル、テキストボックス、テキストエリア、リッチテキスト、数値入力ボタンスピナー、デートピッカー、デフォルトピッカー、ライン、フレーム、コンボボックス、ドロップダウンリスト、ラジオボタン、チェックボックス、チェックボックスグループ、マトリックス、イメージ、計算ボタン、コピーボタン、初期化ボタン、デフォルトボタン	○
2	4	3	4		複数の部品をグループとして必要に応じてグループ全体として増減させることができること。	○
2	4	3	5		イメージには、下記小項目「キー画像編集機能」と同等の編集ができること。	○

別紙1 画像診断システム要求仕様書

要求仕様						必須
2	4	3	6		イメージでは、冠動脈造影検査のようにシェーマ画像に直接結果を記入する事により視覚的にわかりやすいレポートを作成ができること。 ・特定の領域をクリックする事によりその部分の塗りつぶしパターンが順次変わる ・特定の塗りつぶしパターンを直接選択 ・選択された塗りつぶしパターンは他の部品と連動する（双方向）	○
2	4	3	7		入力時の値に応じて次階層の項目がダイナミックに切り替えができること。	○
2	4	3	8		テンプレートの計算ボタンまたはフォーカスアウト時の自動計算により、項目同士の四則演算などができること。	○
2	4	3	9		テンプレートの入力内容を初期化できること。	○
2	4	3	10		テンプレートの入力内容他の項目に簡単にコピーできること。	○
2	4	3	11		テンプレート上ボタンや選択した値毎に、複数の項目についてデフォルト値をセットできること。	○
2	4	3	12		テキスト入力エリアの表示サイズをパーセント指定で拡大縮小することができること。	○
2	4	3	13		テンプレートの各項目では必須指定が可能で、入力されていない場合に警告が表示できること。	○
2	4	3	14		施設独自のテンプレートの作成もできること。	○
2	4	3	15		検査種および部位毎にデフォルトで選択表示されるシェーマの指定ができること。	○
2	4	4			レポート作成（キー画像）	
2	4	4	1		レポートにはキー画像を付加することができること。	○
2	4	4	2		キー画像は連携する画像ビューワ上の画像を簡単な操作にて入力、外部ファイル（ファイル指定、ドラッグ&ドロップ）からの入力、クリップボードからの入力、シェーマのリストからの入力ができること。	○
2	4	4	3		レポート本文はキー画像とリンクしたキー画像番号を指定したフォーマットに従って入力することができること。このキー画像番号は、キー画像の並べ替えや削除など、キー画像の編集に追隨して自動で更新されること。	○
2	4	4	4		画像ビューワからのキー画像の入力時、キー画像の検査とレポート作成中の検査が異なる検査や異なる患者である場合、設定によりその旨の警告メッセージを表示する、あるいはキー画像として入力を不可とすることができること。	
2	4	4	5		画像ビューワからのキー画像の入力時、設定により検査日やオーダ番号をアノテーションとしてキー画像に自動で付加できること。アノテーションの色やフォントの大きさ、付加する位置はユーザ毎に設定できること。	
2	4	4	6		入力されたキー画像に対して、公開/非公開の指定ができること。非公開と指定されたキー画像は印刷されたレポートやWEB参照画面には出力されないこと。	○
2	4	4	7		キー画像はサムネイルで一覧表示することができること。	○



別紙1 画像診断システム要求仕様書

要求仕様						必須
2	4	4	8		キー画像のサムネイル一覧にて、ドラッグ&ドロップでのキー画像の並び替え、キー画像の削除、公開/非公開の指定ができること。	○
2	4	5			レポート作成（簡易レポート入力ウィンドウ）	
2	4	5	1		画像ビューワからの操作で、ビューワ上に簡易レポート入力ウィンドウをポップアップ表示し、レポートの記入ができること。	○
2	4	5	2		簡易レポート入力ウィンドウでも以下の機能が使用できること。 ・過去レポートからのコピーができること。 ・テキストパターンの流用ができること。	○
2	4	6			キー画像編集機能	
2	4	6	1		キー画像にはオブジェクト（アノテーション）を付加することができること。	○
2	4	6	2		オブジェクトとしては、直線、始点矢印/終点矢印、フリーハンドライン、矩形/塗りつぶし矩形、円/塗りつぶし円、フリーフォーム、イメージスタンプ、テキスト、始点矢印/終点矢印+連番、始点矢印/終点矢印+テキストが使用できること。	○
2	4	6	3		オブジェクトには任意の色を使用できること。	○
2	4	6	4		テキストでは、フォントやサイズを指定できること。	○
2	4	6	5		テキストでは、テキストパターンからの選択ができること。	○
2	4	6	6		線は任意の幅を使用できること。	○
2	4	6	7		イメージスタンプは、ユーザが定義したイメージを使用することができること。	○
2	4	6	8		塗りつぶしでは、様々なパターンを使用できること。	○
2	4	6	9		オブジェクトは透過率を指定することができること。	○
2	4	6	10		オブジェクトは入力後に色、形・サイズの変更ができること。	○
2	4	6	11		オブジェクトはコピー＆ペースト操作ができること。	○
2	4	6	12		オブジェクトの色、フォント、線幅の初期値はユーザ毎にユーザ自身で設定することができること。	○
2	4	6	13		キー画像は、90度回転、左右反転、上下反転、拡大/縮小、パニング、階調調整、トリミング（指定範囲の画像切り取り）の各操作ができること。	○
2	4	6	14		キー画像に対する操作は、元に戻す、やり直すことができること。	○
2	4	6	15		キー画像にはコメントを付加することができること。コメントはフリーあるいはコメントパターンでの入力ができること。	
2	4	7			読影リスト機能	
2	4	7	1		レポート作成画面内に記入対象の検査の一覧を表示し、レポート作成画面内のみでレポートの記入→次の検査の選択→レポートの記入、という操作ができること。	○
2	4	7	2		レポートの保存は1クリックで保存と次のレポートの表示ができること。	○
2	4	8			検査歴・症例検索機能	
2	4	8	1		レポート記入時に、該当患者の過去レポートを時系列的に参照する機能を有し、必要に応じてコピー＆ペーストができること。	○



別紙1 画像診断システム要求仕様書

要求仕様						必須
2	4	8	2		以下のような定型項目を検索条件として指定できること。 レポート記入状況、患者ID、検査日、検査時間帯、検査種、性別、検査時年齢、検査項目、検査項目名称、緊急・至急・至急現像・要読影などの検査の情報、依頼科、依頼医、施行医、レポート状況毎の保存者、確定日、確定医、承認者、紹介元施設、レポートタグ、レポート分類、レポートテンプレート項目、キー画像公開有無など	○
2	4	8	3		以下のような部分一致文字列を検索条件として指定できること。 検査項目名称、検査依頼コメント、レポートテキスト、キー画像コメント、レポートコメント、レポート分類コメントなど	○
2	4	8	4		部分一致文字列検索では、AND/OR指定の検索、NOT検索、数値の範囲検索、空白を含む文字列の検索、ワイルドカードを指定した文字列検索ができること。	○
2	4	8	5		過去レポートの検索条件、リスト表示項目はユーザ単位にユーザ自身で設定できること。	○
2	4	8	6		過去レポートをコピーする場合に日付+検査種名称+特定文言 「9999/99/99 検査種 と比較しました」といった特殊コピーができること。日付レイアウト及び特定文言はユーザにより設定できること。	○
2	4	8	7		過去レポートからコピーする際、所見コピー、診断コピー機能がそれぞれ個別に使用することができること。	○
2	4	8	8		過去レポートのキー画像クリックにより画像ビューフを起動し、キー画像のオリジナル画像を直接参照できること。	○
2	4	8	9		画像ビューフからの操作により、画像ビューフで選択されている画像のレポートを表示できること。	○
2	4	9			テキストパターン機能	
2	4	9	1		よく使用する文章をテキストパターンとして登録し、レポート作成時に以下の簡単な操作で流用することができること。 ・文章一覧からパターン名の選択による入力 ・ショートカットキーによる入力 ・ボタンによるショートカット入力 ・マウスの右クリックメニューによる入力	○
2	4	9	2		テキストパターンはテキスト入力エリア毎に登録することができ、個別あるいは複数の入力エリアの内容をまとめて流用することもできること。	○
2	4	9	3		テキストパターンはユーザが所属するグループ共通で使用するもの、ユーザ個人でのみ使用するものと分けて登録することができること。	○
2	4	9	4		テキストパターンは検査種に関係なく共通で使用するもの、特定の検査種のみで使用するもの、さらに特定の検査部位のみで使用するものと分けて登録することができること。	○
2	4	9	5		レポート記入中にテキストパターン登録・編集ができること。	○
2	4	9	6		メンテナンス時には既に登録済のテキストパターンを流用することができること。	○
2	4	9	7		テキストパターンは入力中の文字に部分一致する候補をリアルタイムに表示し、キーボード操作で選択して使用することができること。	○
2	4	10			レポートコメント機能	

別紙1 画像診断システム要求仕様書

要求仕様						必須
2	4	10	1		レポートに個人あるいはグループのコメントテキストを付加できること。個人コメントはそのユーザのみ、グループコメントはそのグループのメンバーのみが参照できること。	○
2	4	11			ファイル添付機能	
2	4	11	1		レポートに任意のファイル（PDF、Word、Excelなど）を複数添付することができること。	○
2	4	12			レポートテンプレートテキスト変換機能	
2	4	12	1		テンプレート入力された内容を文章に変換し、テキスト入力エリアに反映することができること。	○
2	4	13			レポート印刷機能	
2	4	13	1		印刷時には印刷確認画面が表示され、印刷プレビューを行うことができ、出力プリンタ、出力フォーマット、部数の指定ができること。	○
2	4	13	2		レポート状況が確定以外のレポートを印刷した場合、印刷されたレポートにレポート状況が印字できること。	○
2	4	13	3		紙媒体への印刷以外にPDF等のファイルに出力することができること。	○
2	4	14			画像呼出機能	
2	4	14	1		画像ビューフ連携（共通機能）にて該当オダの画像を呼び出しができること。	○
2	4	14	2		画像の呼出は設定により、レポート記入画面表示と同時に画像表示できること。	○
2	4	14	3		呼び出した画像ビューフより画像をレポートのキー画像として取り込み、保存できること。	○
2	4	15			計測値ペースト機能	
2	4	15	1		画像ビューフでの計測値を簡単な操作でレポートにペーストできること。	
2	4	15	2		以下の計測値がペーストできること。 長さ、画素値、角度、面積、平均、標準偏差、最大、最小、長径・長辺、外周、InnerLength、OuterLength、比率	
2	4	16			音声入力機能	
2	4	16	1		既存の音声入力ソフトを利用できること。	○
2	4	17			NWユーザ辞書機能	
2	4	17	1		NW型辞書(医学辞書含)によりどのレポート端末でもログインしたユーザの変換辞書が使用できること。	○
2	4	18			医学辞書機能	
2	4	18	1		かな漢字変換ソフト用医学辞書を有すること。	○
2	5				症例データ管理	
2	5	1			症例データ管理共通機能	
2	5	1	1		症例検索・管理機能により、レポート作成時の過去症例の参照、学会発表用症例や研究用症例の収集、ティーチングファイル（学習用）、カンファレンス用、個人でのデータ収集などの用途に使用できること。	
2	5	1	2		リスト表示されたレポートはボタンクリックなどの操作にて、患者コメント、レポートコメント、タグ登録、分類指定、オダ/レポート詳細情報、検査歴、画像の参照、印刷などの操作ができること。	○

別紙1 画像診断システム要求仕様書

要求仕様						必須
2	5	1	3		検索結果や分類内容の一覧は個別にタブとして表示し、切り替えて参照することができること。	○
2	5	1	4		上記、大項目「全般」の小項目「検索条件リスト」に対応していること。	○
2	5	1	5		リスト表示項目としては、以下が表示できること。 レポート表示状況、検査依頼状況、読影区分、患者情報（患者ID、氏名、カナ名、性別、検査時年齢、プロフィール情報、付随情報）、入外区分、病棟、依頼科、依頼医、検査日時、検査種、検査部位、検査項目、検査室、検査依頼付随情報、コメント類（患者コメント、オーダコメント）、紹介元施設、紹介者、実施者、施行医、各ステップ保存者、確定日時、確定医、初回確定日時、初回確定医、承認者、読影担当医、レポート本文の各テキスト、レポート版数、レポート参照状況、レポートタグ、更新中ユーザ、重要レポート区分、重要レポートコメント、PACS画像状況	○
2	5	1	6		リスト表示以外に、当該検査のレポートキー画像が表示できること。	○
2	5	1	7		キー画像表示では、以下が表示できること。 キー画像、患者名、患者カナ名、性別、検査時年齢、検査日、検査種、検査項目、キー画像コメント	○
2	5	2			症例レポート検索機能	
2	5	2	1		以下のような定型項目を検索条件として指定できること。 レポート記入状況、検査依頼状況、患者ID、検査日、検査時間帯、検査種、性別、検査時年齢、検査項目、検査項目名称、緊急・至急・至急現像・要読影などの検査の情報、依頼科、依頼医、施行医、レポート状況毎の保存者、確定日、確定医、承認者、紹介元施設、レポートタグ、レポート分類、レポートテンプレート項目、キー画像公開有無、重要レポート区分など	○
2	5	2	2		以下のような部分一致文字列を検索条件として指定できること。 検査項目名称、検査依頼コメント、検査依頼コメント（複数種別）、RISで入力されたコメント、レポートテキスト、レポートテキスト（複数種別）、キー画像コメント、ICD/IRD、レポートコメント、レポート分類コメントなど	○
2	5	2	3		部分一致文字列検索では、AND/OR指定の検索、NOT検索、数値の範囲検索、空白を含む文字列の検索、ワイルドカードを指定した文字列検索ができること。	
2	5	2	4		検索結果に対してさらに条件を指定し、検索結果の絞り込みができること。	○
2	5	3			症例レポート分類管理機能	
2	5	3	1		検索したレポートは、フォルダイメージで分類保存することができること。	○
2	5	3	2		分類の名前変更、表示順指定、新規分類作成、削除ができること。	○
2	5	3	3		ユーザ、ユーザグループ、共通単位での分類管理ができること。	○
2	5	3	4		分類単位での移動、並び替えができること。	○
2	5	3	5		レポート作成中に分類編集ができること。	○
2	5	3	6		ひとつのレポートを複数の分類に分けることができること。	○
2	6				レポートWEB参照	

別紙1 画像診断システム要求仕様書

要求仕様						必須
2	6	1			WEB参照機能	
2	6	1	1		参照元（外部システムなど）からの呼び出し条件により、検索条件指定可能なレポートリストを表示することができること。	○
2	6	1	2		検査実施情報の参照もできること。	○
2	6	1	3		表示したレポートは検査報告書の体裁で印刷ができること。	○
2	6	1	4		表示したレポートは内容をPDF形式にて出力ができること。	○
2	6	1	5		表示したレポートからは当該患者の過去の確定レポートへリンクし、参照できること。	○
2	6	1	6		表示したレポートからはPACSのビューワとの連携ができ、当該患者の検査画像の呼出ができること。	○
2	6	1	7		表示したレポートのレポート本文中のキー画像番号をクリックすると該当するキー画像がポップアップ表示されること。ポップアップ表示されたキー画像からPACSのビューワを起動し、該当画像のオリジナル画像の参照もできること。	○
2	6	1	8		レポート参照者が参照したレポートに対して既読済を入力できること。既読済とした場合、既読済としたユーザ、既読日時、既読版が記録されること。	○
2	6	1	9		既読後にレポートの更新が行われた場合、既読後にレポートが更新されたことが明示的に表示されること。	○
2	6	1	10		レポートリストにて、検索条件にレポート既読状況、重要レポート区分を指定して検索を行うことにより、未参照レポートの抽出ができること。	○
2	6	1	11		レポート本文に入力されている特定のキーワードに従って自動的に文字装飾として色変更や下線の付加ができること。	
2	6	1	12		自動的に文字装飾するパターンとして色の指定や下線のパターンを指定できること。	
2	7				統計	
2	7	1			読影統計	
2	7	1	1		画像診断管理加算2および3の施設基準「翌診療日までに八割以上の読影結果が報告されていること」の根拠となる翌診療日確定率の算出ができること。	○
2	7	1	2		画像診断症例一覧表が作成できること。	○
2	7	1	3		IVR症例一覧表が作成できること。	○
2	8				部門コミュニケーション	
2	8	1			メッセージ機能	
2	8	1	1		端末間でメッセージの送受信ができること。	○
2	8	1	2		送信したメッセージの内容はリアルタイムに送信先端末に表示できること。	○
2	8	1	3		メッセージには緊急度を設け、表示形式（フォントサイズや色、表示場所）を指定できること。	○
2	8	1	4		受信したメッセージは一定時間参照できること。	○
2	8	2			掲示板機能	
2	8	2	1		部内への連絡事項を掲示できること。	○
2	8	2	2		掲示板に表示させる文章は、記入画面よりユーザが入力・削除できること。また、記入・削除の可能なユーザを権限で制御できること。	○

別紙1 画像診断システム要求仕様書

要求仕様						必須
2	8	2	3		文章には表示可能期間を設定することができ、その期間が過ぎた文章は掲示板に表示されない制御ができること。	○
2	8	2	4		掲示板の本文の文字修飾、色の指定ができること。	○
2	8	2	5		掲示板の本文の表示/非表示ができること。	○
2	8	3			ファイル共有機能	
2	8	3	1		マニュアル・ヘルプなど、部門内で共有したいファイルを登録できること。	○
2	8	3	2		共有ファイルはユーザが簡単に追加、削除ができること。	○
2	9				他システム連携	
2	9	1			システム連携機能	
2	9	1	1		医療情報システムより患者情報、オーダー情報、受付情報、検査実施情報を受信できること。 尚、電子カルテシステム側に発生する連携費用も本調達に含めること。	○
2	9	1	2		画像管理システムに対して患者情報、オーダー情報、レポート情報を送信することができること。また、画像管理システムより画像到着通知情報を受信できること。	○
2	9	1	3		外部システムとのIFの稼働状況を一元的に管理できること。	○